

宇宙物理學教室だより

十一月十二日 學用を滞りて新城上京
そのついでに、東京物理學校に於て**十三**
日、東洋古代の天文學に就て講演。

十一月十四日 新城教授歸洛。同日山
本教授、臺灣より歸洛。

十一月十七日(木) 午後三時半より第
六回雜誌會

臺中に於ける水星の太陽通過觀測報
告……………山本 一清

十一月二十一日 午後二時より花山山
頂に於て道路開通式舉行。師團長、工兵
隊長外關係將校下士約30名、及び七十五
歳の老翁中井氏始め土地寄附者六名を主
賓として、主人側としては荒木總長新城
教授外學内關係教官約百名、當日降りみ
降らずみの悪天候であつたにかかわらず
盛會であつた。花山山に關する地圖其他
外國の諸天文臺の寫眞等を天幕内に陳列
し、尙四時屈折外二三の中村反射鏡など
を陳列した。(不幸にして雨天の爲めに望
遠鏡は使へなかつた)。開會は少しおくれ
たが、新聞社の寫眞班の包圍をうけて先
づ新城教授挨拶をかねて花山山に天文臺
を建てるにいたつた経過をのべ、次に荒
木總長の挨拶、石井工兵隊長の挨拶、中
井翁の懷舊談あり、共に祝杯を舉げ、四
時半一同記念撮影をなして散會した。

十一月二十四日(木) 第七回雜誌會
量子論最近の趨勢(5)……荒木 俊馬

十一月二十四日夜 日本測地學會委員

會其他の學用を滞りて新城教授上京。

十一月三十日 春秋社大思想エンサイ
クロペヂヤ記念の爲め山本博士は大阪中
央公會堂に於て、其他の諸名士と共に出
演、「星の美論」を講演。

十二月二日 新城教授歸洛
山本教授は同日午後六時より京都岡崎公
會堂に於ける春秋社の宣傳講演に於て
「宇宙の有限性」に關する講演をなして五
百の聴衆を酔はしめた。

十二月十四日 一恒星の金星掩蔽觀測
のため、山本教授は午後九時半京都出發、
倉敷天文臺へ。十五日朝三時倉敷着。あ
ひにく五時半には雲片のため掩蔽觀測不
能。しかし直ぐ後に晴れたので、種々試
驗觀測。同日午後三時歸洛。

年末の多忙期にも拘らず、上田助教授
を始め多くの人々が天文年鑑の校正に忙
殺されてゐる、天文年鑑は實は昨年の末
頃に1927年度の分を出版するつもりで印
刷に着手したのであつたが、初めてのこ
さで仕事がなかなか進まず、尙ほ、印
刷して見て、いろいろ計畫に不便や不備
な點を見付け出したため、止むなく、19
27年度のものは中止して了つた。そして、
次の1928年度の分を初號として出すた
め、夏の頃から原稿の作製に取りかゝつ
た。こんどもやはり多少おくれたが、目
下、大車輪で進行中であるから、多分1
月中には市場に出る見込み、——ちよう
どポケットに収まる形の、體裁の好いも
ので、一ヶ年間、天文家たちの伴侶とな
るであらう。